

令和7年度 江戸川区立春江小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	・進んで学ぶ子 ・じょうぶな子 ・思いやりのある子	目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・笑顔とやる気とやさしさあふれる学校 ・主体的に学び、考え、行動できる子 自分を大切に、他を思いやることのできる子 ・子供のことを第一に考える教師 子供のよきモデルとなる教師 互いに協力し合い、認め合い、高め合う同僚性の意識が高い教師	
前年度までの本校の現状	成果	課題	・ベーシックドリルの取組により、診断シートが7割の正答率となり、目標値を達成した。 ・区定着度調査では正答率が上昇した。 ・異学年交流活動を実施し、充実を図った。 ・地域、保護者と連携した教育活動を実施した。	・さらなる教員の学習指導力と生活指導力の向上 ・開かれた教育活動の充実

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・春江学習スタンダードの策定 ・東京ベーシックドリル、ドリルパーク、学力定着度調査の結果を活用した既習事項の定着 ・民間補習教室と学校独自の補習教室の実施	・東京ベーシックドリル正答率が昨年度以上 ・学力定着度調査額の平均以上 ・児童アンケート「授業が分かりますか」が90%以上の肯定的評価	70%	80%	B	・東京BDの平均正答率7割に届かなかった。結果分析のもと未定着分野の定着を図る。 ・春江学習スタンダードを策定した。共通の学習規律の徹底を図っている。 ・90%以上が肯定的評価。分かる授業の工夫を続ける。	B	・ICTを活用している。 ・ベーシックドリル診断シートの結果が少し低下しているようである。 ・授業の理解度は90%と高いと感じられた。	A	・東京ベーシックドリルの平均点が昨年度末より4点アップし目標値を越えた ・児童アンケート「授業が分かる」では、93%が肯定的評価となり目標値を達成した。 ・調査結果に基づいた取組、ICTの活用等により、学力の向上につながった。	B	・児童アンケートを見ても、児童の学力は、向上していると思う。	調査結果や実態をもとに目標値を決め、取組を工夫していく。
	○読書科の更なる充実	・学校応援団、司書と連携した読み聞かせの実施 ・探究的な学習における図書館の活用	児童アンケートの読書の項目で数値上昇	90%	90%	A	・読み聞かせを楽しみにしている。調べ学習でも学校図書館を活用し、探究的な学習に充実を図る。	A	・読み聞かせを担当しているが、保護者や地域の方が積極的に活動に参画しているのが素晴らしい。	A	・80%以上の児童が「読書が好き」と答えている。学校応援団の読み聞かせも楽しんでいる。	A	・来年度以降も読み聞かせは、続けてほしい。	図書を活用した探究的な学習を計画的に行う。
体力向上	○個に応じた体力向上のための取組の実施・充実	「長縄ウイーク」「江戸川っ子なわ跳びチャレンジウイーク」「持久走ウイーク」の全校実施	取組カードを100%の児童が活用	70%	80%	B	・なわ跳びチャレンジウイークでは取組カードを使用し、意欲的に取り組んだ。	B	・全国と比べると数値が低い傾向にあるようである。 ・運動についていけない児童がいる気がする。	B	児童は、運動に意欲的に取り組んでいたが、なわとびカードの在り方や運動内容に、課題がある。	B	・体力向上については、日頃から運動も大切になってくると思う。	なわとびウイークは、教員がプレイリダーとなり、運動を実施する手立てを講じる。
		体力テストの結果分析を生かし、体力の課題に応じた体育学習の工夫・改善	児童アンケートの運動項目で、80%以上の肯定的評価	50%	80%	C	・85%が肯定的評価。体力テストの結果、反復横跳び、立ち幅跳び、シャトルランに課題があり、方策を検討中。	B	・児童が校庭で元気よく遊んでいる姿を拝見すると、それ程体力の低下は感じていない。	B	児童アンケートは、90%以上が肯定的評価だった。一方体力テストの結果を活かした工夫・改善が不十分だった。	B		体力テストの結果分析からの有効な手立てを2学期始めまでに実施し、授業に活かす。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・校内委員会における個に応じた指導、支援の充実。巡回指導教員、特別支援専門員の活用	・校内委員会が月1回開催。巡回指導教員と管理職との定期的な打ち合わせ実施	70%	80%	B	・校内委員会を活用し、支援が必要な児童の対応について検討した。関係職員と引き続き連携を図っていく。	B	・特別支援学級と通常学級の交流の機会がしっかりと確保できていると感じる。 ・教員の理解を深める活動もできている。	B	月1回の校内委員会において、支援が必要な児童の対応について組織で支援の仕方を考え、連携した対応をした。	B	・交流は、今後も続けてほしい。	校内委員会の内容を充実させ、適切な児童の支援につながるよう計画する。
	○特別支援学級との交流及び共同学習の実施・充実	・児童の実態に応じた交流及び共同学習の実施	1教科以上で実施。特別支援学級と通常学級の交流の機会を前年度より増加	90%	90%	A	・児童の実態に応じて交流学習や共同学習を実施している。昨年度より回数を増やし交流歩幅が広がっている。	B		A	行事の他、理科、家庭科、総合、外国語で、交流学習を実施した。個に応じた対応をすすめた。	B		通常の学級担任と特別支援学級の担任がより連携して、交流・共同学習の充実を図る。
	○インクルーシブ教育の推進	・教員の特別支援理解教育研修会の実施 ・児童への特別支援理解教育の実施	教員向けの研修会と特別支援学級教員による児童への理解教育の実施	70%	80%	B	・教員研修を2回実施した。 ・児童向けに特別支援学級理解教育を行った。	B		A	教員向けと児童向けに特別支援理解教育を複数回実施した。	B		より専門的な特別支援理解教育研修会の実施を計画する。
不登校・いじめ対応の充実	○いじめ防止対策基本方針に基づく指導の実施	・いじめの未然防止、早期発見、早期対応の実施 ・いじめ防止に関する教員研修の実施	・児童、保護者からの相談対応100% ・児童アンケート90%以上肯定的評価	70%	70%	B	・ふれあい月間の取組（アンケート、講話）でいじめの早期発見と早期対応に努めた。肯定的評価96%であった。	B	・担任だけでなく、他の教員もフォローしている点が良い。	B	「友達となかよくできているか」は97%と肯定的評価が高い。引き続き早期発見、早期対応をしていく。	B	・不登校は、中学校になると増えていくことも聞いている。小学校の段階から何か取組をしていくことが大切。	研修会を開催し、早期発見、早期対応の実施を図る。組織的な対応を行う。SC、SSWとの連携を引き続き行う。
	○不登校対策、対応の充実	・スクールカウンセラー関係教員との連携強化 ・エンカレッジルームの活用	・不登校、不登校傾向の児童の前年度比減少	70%	80%	B	・欠席が続いた児童や登校が滞りがちな児童の家庭と早期に連絡を取ったりSCと連携したりするなど対応した。	B		B	朝の出欠の確認を養護教諭、専科と連携して確実にし、不登校につながらないように早期の対応をした。	B		
学校（園）の現状 開かれた地域社会の実現	○事項の取組の積極的な発信	・学校ホームページを活用した教育活動の周知 ・学校、学年、保健、給食等毎月デジタル配信	・HP担当、学年による1～2週間に1回以上の配信。前年度より増加	90%	90%	A	・HPへの配信回数を増やし、学校の様子が分かるように伝えた。 ・デジタル配信も定着した。	A	・HP等の配信は、積極的にできていると感じる。 ・学区内の町会・自治会など地域住民も学校運営に協力的であると感じる。	A	HPへの配信、開かれた学校に打ち手は昨年度より12%アップした。教員の意識の向上を図ることができた。	A	・HP等の配信は、様子がよく分かる。 ・地域でできることもしていきたい。	より子供や学校の様子が伝わるよう、配信をしていく。学校だよりと学年だよりの内容と発行の仕方より分かりやすくしていく。
	○学校関係者評価の充実	・学校評議員会での意見交換 ・児童、保護者、評議員に向けて教育活動についてのアンケートの実施と公表	・学校評議員会を年3回実施 ・学校アンケートの実施	90%	90%	A	・第2回学校評議員会を開催し、ご意見を伺った。課題について整理し、今後に生かしていく。	A		A	年3回の学校評議員会を実施し、ご意見ご感想をいただいた。改善につなげていく。	A		
教育の特色ある展開	○豊かな心の育成	・縦割りの班活動の年間を通じての実施 ・柿の木プロジェクトの全校実施	・年間10回の縦割り班活動実施 ・児童アンケート「関わり」で80%以上の肯定的評価	90%	100%	A	・予定通り実施している。遊びの工夫をし他学年と関わる活動を取り入れていく。 ・全校で柿の木全校集会を実施した。取組を進める。	A	・柿の木プロジェクトは、保護者も協力的で、子供たちの教育にも資する内容になっていると感じる。	A	柿の木集会を開催した。原爆体験者から戦争体験談を聞き、平和の大切さについて全校で考えた。	A	・柿の木については、よい取組だと感じる。	柿の木プロジェクトの取組の定着を図り、充実させる。
	○働き方改革の推進	・スクールサポートスタッフ、副校長補佐の活用、業務の効率化	・月に1回の定時退勤日の退勤、残業時間の短縮	70%	80%	B	・昨年度より、残業時間が減少している。さらなる効率化を図る。	A		A	昨年度より、残業時間が減少した。さらなる効率化を図る。	A		